

2023年度 東北学院ボランティア実習生 感想文

教養学部言語文化学科 M. I

今回、シニアネット仙台でのボランティア活動を通して、NPO 法人の団体がどのように運営されているのかということを知った。それと同時に、シニアネット仙台のような団体が各地に増えて、高齢者世代の人々が目的をもって継続的に楽しむことができる場がある社会になれば良いと感じた。また、シニアネット仙台の会員の方々を見るといつも楽しそうに会話しており、皆さん生き生きとした印象で、私自身も行くたびに元気を貰っていた。私が日常生活の中でシニア世代の方と交流するのは、祖父母と会話をするときしかないと、私自身が内向的な性格であるため、今回の活動に関してシニアネット仙台の方々と上手く交流できるか心配する側面もあった。

しかし、シニアネット仙台のスタッフから会員の方々まで皆さんに温かく迎えて頂き、とても有難く感じた。また、どのサークルもボランティア活動という形だけでなく、一個人として機会があればまた参加させていただきたいほど今回の活動は充実していた。さらに、レポートでも述べたように、少子高齢化が進んでいく中で、私たち大学生から下の若年層と高齢者世代の交流の機会は家族以外を通して少ないと思われる。そのような中で、今夏のボランティア活動のような機会があれば、年齢に関わらず、今まで関わることのなかった人々に出会うことができ、さらに各世代に対する理解を深め、多くの人が快適に過ごせる社会につなげていけるのではないかと思った。

教養学部情報科学科 K. T

私はシニアネット仙台での活動を通して、ボランティアや高齢者に対する印象が大きく変わった。シニアネット仙台で活動する前は、高齢者と関わる機会というのは祖母や祖父の家に行くときだけであった。私の祖母も祖父も趣味などは少しあるが多くの人と関わり何かをするということがなかった。そのため自分も高齢者になった時には人と関わるのが少なくなるのだろうと考えていた。

しかし、シニアネット仙台に通っている方々は一人一人が自分の趣味や好きなことを見つけ、毎日を楽しんで過ごしていた。そんな方々を見ているとこちら側まで元気やパワーをもらうことができた。ボランティアに対しても、ボランティアをする側が支えていくイメージがあった。しかしこの活動を通して、様々な人から優しくしていただき元気をもらい、こちら側も多くの支えをいただいた。そのためボランティアは共に活動をし、支え合えあう活動だなと感じることができた。シニアネット仙台のような場所は日本でも珍しい場所である。少子高齢化進む今、私たち若い世代もこういった問題に目を向け、シニアネット仙台のような場所を増やしていきたいと考える。